



くらはし

舞鶴市立倉梯小学校
学校だより 7月号
令和8年6月30日

夏、学びと生活の往還から

朝夕にはわずかな涼を感じつつも、日中は照りつける陽ざしの強まりを覚える頃となりました。水泳学習の時にプール監視台にいと、ふと独特の香りが漂ってきます。不思議に思っ振り返ると、トウネズミモチが枝先いっぱい小さな白い花を咲かせていました。まさに夏の訪れです。1学期も残すところあとわずかとなりました。

天気の良い朝には、南校舎とグラウンドの間のスペースに多くの子どもたちが出てきて、アサガオや夏野菜に水やりをしています。日に日に変わる植物の様子に目を輝かせながら、「僕の手より葉が大きくなっている。」「今日は花が五つ咲いた。つぼみもある。」といった声があちらこちらから聞こえてきます。中には、アサガオのつるの巻き方や伸びる方向の規則性に気付く子もいます。これらの気付きはインターネットや図鑑で得た知識ではなく、自らの体験を通して得た確かな学びです。花の色や形、大きさ、さらには匂いや手ざわりなど、五感を通して対象に向き合うことで、子どもたちの中に深い理解と興味が芽生えていきます。

体験を通して学ぶことは、人の心を動かし、思考を広げます。本校で大切にしている特別活動においても、**「なすことによって学ぶ」**という原点を重視しています。6月には修学旅行をはじめ、各学年が校外学習に出かけました。日常の教室を離れた環境の中で、子どもたちは新しい発見をし、友だちと関わりを深めてきました。そして7月2日、3日には5年生が1泊2日の野外活動に出かけます。自然の中での体験は、教室では得難い多くの学びをもたらしてくれることでしょう。

このような体験の積み重ねの中で育まれるのが、「見る力」「気付く力」「話す力」です。目に見えにくい力ではありますが、子どもたちが主体的に学び合い、自分たちの力で成長していくためには欠かせない基礎基本です。一方で、これらの力は授業の中だけでは十分に身に付けることが難しい面もあります。だからこそ、本校では「学びで生活を楽しくし、生活が学びを豊かにする」というテーマのもと、日常生活と学習を往還させる取組を進めています。

その一環として、6月と7月実施の「自分で学習週間」があります。生活に少しの時間的余裕を持たせ、その中で子どもたち自身が気付き、考え、学びを深めていくことをねらいとしています。すぐに成果が表れるものではありませんが、自ら学ぶ姿勢を育てるためには欠かせない過程であると考えています。やらされる学びから、自ら求める学びへと転換していくために地道に取り組んでまいります。

さて、先ほどのトウネズミモチについてさらに調べてみると、トウは中国のこと、ネズミは11月頃にネズミの糞に似た実をつけること、モチは葉がモチノキに似ていることに由来するそうです。花の季節だけでなく、実のなる頃にも改めて観察してみたいものだと感じました。このように一つの気付きからさらに関心を広げていくこともまた学びの楽しさの一つです。

7月は厳しい暑さが続きますが、植物がぐんぐんと成長する季節でもあります。子どもたちにとっても、心と体を大きく伸ばし、学びを深める大切な時期です。教職員一同、子どもたちの成長をしっかりと支えてまいります。

なお、熱中症等の安全面には引き続き注意して学校運営を進めていきます。保護者・地域の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

校長 四方 直人